



大杉東小だより

令和6年9月2日 No. 6

江戸川区立大杉東小学校 校長 高橋 真

「出会い」を大切に

曜日の関係で44日間となった長い夏休みが明け、本日2学期がスタートし、久しぶりに新校舎が笑顔で溢れました。夏休み中は、7月からの記録的な暑さが一向に収まらず、ほぼ毎日、熱中症警戒アラートが発令されたため、予定していた夏季水泳指導は前期のほとんどを中止にせざるを得ませんでした。また、地震への警戒や台風の接近、そして毎日のように各所を襲ったゲリラ雷雨により、各ご家庭での予定や子供たちの活動も大きく変更・制限されたことと思います。それでも、この時期ならではの経験や体験は子供たちをまた一回り成長させたことと思います。

さて、7月26日から開催された第33回オリンピック競技大会（パリオリンピック）は、207の国と地域から1万人以上のトップアスリートが集まり、17日間にわたり各競技各種目で熱戦が繰り広げられました。日本人選手の活躍も目覚ましく、金メダル獲得数は、アメリカ、中国に次ぎ、世界3位でした。日本のお家芸とされる競技での活躍もさることながら、新しい競技における活躍も目を見張るものがありました。その健闘ぶりを手に汗を握りながら応援し、どれだけ勇気と感動を覚えたことでしょうか。

その中で、東京オリンピックから連続で銅メダルに輝いた、バドミントン混合ダブルスの「ワタガシペア」東野有紗選手の試合後の一言「本当に勇大君と出会って良かった。」が心に残りました。渡辺勇大選手とは同じ中学校の先輩と後輩。合宿中に残った選手同士でペアを組んだところ相性がとても良く、以来13年間にわたりペアを組んできたそうです。ペア種目は、お互いの持ち味や気性、弱点などを把握しカバーし合うことで力を発揮します。試合中の励まし合う姿もこの二人ならではのと思わせる場面が数多くありました。

また、陸上女子フィールド種目でオリンピック日本人初の金メダルに輝いた北口榛花選手は、中学校時代までは競泳とバドミントンで活躍していました。やり投げと出会ったのは高校に進学してから。クラブ顧問に誘われたのが陸上競技を始めたきっかけだったそうです。すぐに頭角を現し、2年生のときには高校総体で優勝。2019年からは単身チェコに渡って現在のコーチから指導を受け、日本記録を次々に更新。東京オリンピックでは決勝に進出するも、予選後からの左脇腹の痛みが影響し、12位と残念な結果となりましたが、今回は見事に優勝を果たしました。幼い頃からの水泳や小学校からのバドミントンで鍛えた元々の身体能力と、「やり投げとの出会い」「クラブ顧問やコーチとの出会い」があったからこそ成し遂げられた快挙でした。

人はその人生において数限りない「出会い」があります。その「出会い」は「人」とは限りません。「人・もの・こと」との出会い、そしてそれらとの関わりの中で受けた影響は、その後の人生に何らかの価値を与えます。子供たちには、これからも「出会い」を大切にさせていきたいと改めて感じました。

2学期もこれまで同様、教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。